

2010年5月【カイビガン】通信 No.02

-フィリピンに於ける貧困削減への挑戦-



1. 今回の現地活動目的

2. 活動者参加者

3. プロジェクトサイト

- 1) ロケーション
- 2) 竹製のコテージ
- 3) サイト内換金作物

4. タール湖と住人の生活

- 1) タール湖とその資源
- 2) 住人の生活

5. 今後の活動計画

6. 編集後記

1. 今回の活動目的

- 1) 現地 NGO 設立進捗状況確認と助言
- 2) サイトの地図上の場所確認
- 3) 現地自治体によるエコツーリズム計画の情報収集
- 4) サイトにおける換金可能作物の調査
- 5) タール湖の資源調査
- 6) タール湖畔の住民の生活状況把握
- 7) ソーラーパネルの設置工事観察
- 8) 溶接技術のニーズ把握
- 9) ソーラーパネル、溶接機、工具など価格調査

★これらを、写真を交えて以下に報告します

2. 活動参加者

久米、中嶋（雇用・能力開発機構千葉センター）

3. プロジェクトサイト

1) ロケーション

右の地図のように、マニラから南へ 150 km~200 km離れています。



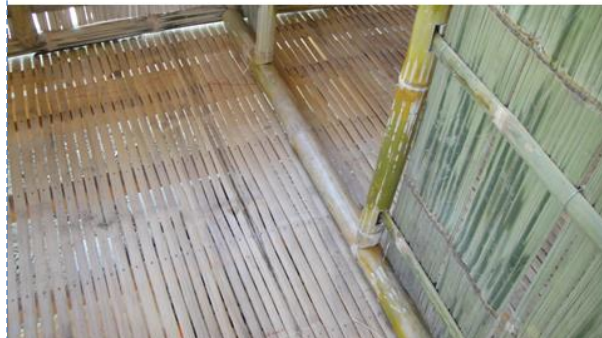
下草を刈って、整地した土地に竹製の家とトイレ兼シャワールームもできました。



3. プロジェクトサイト
2)バンブーコテージ: 汚水浄化槽



3. プロジェクトサイト
2)バンブーコテージ: 竹の床



3. プロジェクトサイト
2)バンブーコテージ: 天井



天井は椰子の葉を何枚も重ねて

3. プロジェクトサイト
2)バンブーコテージ



寝どべって見る風景

3. プロジェクトサイト
近所の住人



ウイルモさん
ファミリー
(ウイルマさんの弟)

- 12人の子ども達
- 1) ローバー ----- 男 4才
 - 2) ニコス ----- 男 5才
 - 3) ベニス ----- 女 7才
 - 4) チェルシー ----- 女 9才
 - 5) ジョシュワ ----- 男 11才
 - 6) ローウィ ----- 女 12才
 - 7) シャーリーン ----- 女 14才
 - 8) マージュリ ----- 女 16才
 - 9) ジェンジュン ----- 男 18才
 - 10) パウロ ----- 男 21才
 - 11) マイケル ----- 男 23才
 - 12) ロメル ----- 男 24才
- 2010年5月

3. プロジェクトサイト
2)バンブーコテージ: 経費

- ★2月～4月に行ったサイトの環境基盤整備費
- 1) 下草の除去(2ヘクタール) や公道からのアクセス階段工事費
雇用費: 8日間×5人=9,600ペソ
 - 2) 配水工事費=9,800ペソ
 - 3) トイレ建設=22,300ペソ
設備購入費と設置工事及び浄化槽工事費
 - 4) コテージ建築費=21,000ペソ
内訳: 竹の購入、乾燥、椰子の葉を天井用に編みこみ作業、
竹製コテージの建築
 - 5) その他、工具購入費、輸送費、交通費など約15,000ペソ
- ★計=約70,000ペソ(約14万円)

3. プロジェクトサイト
3)敷地内にある換金可能な作物: コーヒー



左: コーヒーの木
下: コーヒーの実



3. プロジェクトサイト
3)敷地内にある換金可能な作物: バナナ





★思った以上にサイト整備は進んだ。

土地の整備やバンブーハウス建設で 3 家族が 2 か月ほど生活できる程度雇用することができた。しばらくは私たちの出資で雇用創出にチャレンジするが、一日も早く、自らの事業や仕事（例>セラピア養殖、養豚など）を創出できるように支援しよう。



4. タール湖と住人の生活

1) タール湖とその資源





★この他にも蜆（シジミ）貝や年によっては、イワシによく似た魚の大群が押し寄せ腐るほどの漁獲があるそうだ。

2) 住人の生活 = 仕事や衣・(食)・住・道具の垣間見た様子など



4. タール湖と住人の生活
2) 住人の生活：職と道具・衣・(食?)・住



4. タール湖と住人の生活
2) 住人の生活：職と道具・衣・(食?)・住



4. タール湖と住人の生活
2) 住人の生活：職と道具・衣・(食?)・住



4. タール湖と住人の生活
2) 住人の生活：職と道具・衣・(食?)・住



共同の水場には懐かしいポンプ

4. タール湖と住人の生活
2) 住人の生活：職と道具・衣・(食?)・住



調理は屋外で五徳と薪で行う

4. タール湖と住人の生活
2) 住人の生活：職と道具・衣・(食?)・住



共同水場のそばで弟の面倒(水浴)をみるお姉ちゃん

4. タール湖と住人の生活
2) 住人の生活：職と道具・衣・(食?)・住



通りで遊ぶ子供たち

4. タール湖と住人の生活
2) 住人の生活：職と道具・衣・(食?)・住



水辺は遊び場、そしてコミュニティーの広場


4. タール湖と住人の生活
2) 住人の生活：職と道具・衣・(食?)・住



子ども達を集めてキャンディーを配るウイルマさん

4. タール湖と住人の生活
2) 住人の生活：職と道具・衣・(食?)・住

竹の筏：使わないときは、乾燥させる



4. タール湖と住人の生活
2) 住人の生活：職と道具・衣・(食?)・住

バンカーボート



4. タール湖と住人の生活
2) 住人の生活：職と道具・衣・(食?)・住



船を持たない漁師はこの竹の筏で漁をする

ほんの2～3日の滞在で住民の生活が解るわけもないのです。特に、朝・昼・晩の食事などその悲惨さは如何ほどでしょうか？ 住民と共に暮らすことで、衣・食・住の現状把握と改善への手だてが発見できるのでしょう。実際にそれは叶わないので、信頼できるパートナー（ウイルマさん、ウイモーさん）と語り、共に考えながら地道に進もうと思います。

貝堀の道具



4. タール湖と住人の生活
2) 住人の生活：職と道具・衣・(食?)・住

4. 今後の活動計画

将来のために、現時点で思いついたこの村落での生計向上支援活動を書いております。

1) エコツーリズム：道路整備とガイド養成

★サイト近くの湖畔を活用したエコツーリズムに、集客が期待される大きな2つの目玉を見つけた。勿論、仮説段階だが、環境保護を念頭に置いた地域開発案である。

①フィリピン最古の教会跡

より詳しい調査が必要だが、スペイン入植時にタール火山噴火によって半分埋まった教会の壁が残っている。国民の90%以上がクリスチャンの国で、ここは大きな観光スポットに

ならないだろうか？

②タール湖魚類ミニ水族館

魚類、貝類、甲殻類などタール湖の生息生物の調査と展示による環境教育で自然保護と地域活性化ができないだろうか？

エコツーリズム

「エコツーリズム」という単語は「エコロジカル・ツーリズム（環境に配慮した旅行）」の略だ。これは、エクトール・セバジョス-ラスクリアンというメキシコ人建築家によって、1983年に初めて提唱された。

エコツーリズムには、ダイビングやバード・ウォッチング、ハイキング、考古学体験などの観光活動が含まれる。エコツーリズムは環境保護のためのものだけではない。

参加者たちには、地元の文化を支え、地元経済に恩恵を与えることも求められている。ポイ捨てしたり、植物や珊瑚を踏みつけたり、過度に大きな音を立てたりしてはならないことは誰でも知っている。あらゆるレベルでの協力が不可欠なのだ。

まず、政府は環境問題について国民を教育しなければならない。同様に、地元住民と、ホテルや旅行会社などの私企業が密に連携して取り組む必要がある。

ツアー規模の制限や自然歩道の整備、地元ツアーガイドの活用も重要だ。食べ物や工芸品は、地元住民が観光客に直接販売すべきだ。そうすることで、近隣の町から来た商人ではなく地元住民自身が、自分たちの文化を広めることによる経済的な恩恵を受けられるよう保障することができるのだ。

ブラジルであれ、バルバドスやバリエであれ、この手の旅行は従来の休暇に比べて高くつく。だが、これもささやかな投資だ。エコツーリズムは美しい土地を守るだけでなく、我々の孫たちの将来の旅行体験も守ってくれるのだ。

【説明文は、久米が通っている、英会話イーオンのテキストから引用しました】

2) 観光開発＝筏釣りや遊覧船、工芸販売、飲食業

★竹のイカダで釣りをするのんびりツアーを販売

- ・ターゲットはバタンガス市の裕福層
- ・日中は暑いので早朝から 10am まで
- ・餌は子どもたちが捕まえた生きエビ
⇒子どもたちも現金収入のビジネスを覚える
- ・釣り客に漁師飯を販売する
- ・釣り客用の調理、ゴミ処理など住民教育
⇒住民への公衆衛生教育が定着
- ・釣り用イカダの改良：日除け、椅子の設置



5. 今後の活動計画
2) 観光開発、筏釣り

3) コテージの整備と活用

①居住環境向上

- ★ソーラーパネル設置で夜間の生活改善
- ★貴重品の保管や大雨、強風の対策
- ★自給自足できる食料の生産⇒野菜、家畜、果物、保存食など
- ★食料保存対策（冷蔵庫？）

②ものづくりの拠点

コテージを拠点に、極力現地調達できる竿在の活用、現地に不足している生活必需品や求められる人材に括目した活動を計画していきます。

③住人+管理人+地域医療（無医村）

★ミンダナオ島に暮らしていたウイルマさんの姉が、サイトでの体験生活が気に入った様子。

- ・昨年、ご主人が亡くなったのでサイトに引越しを考えている。
- ・彼女は高校の先生をしていた。地域の子供たち相手に寺小屋を始めるのも良い。
- ・娘二人も同居する様子。一人は看護師なので無医村に応急処置が可能となる

4) 便利屋

- ★サイト近隣に溶接機を持った工場がない。現状は、ジブニーに乗って30分もかかる。
- ・工場を作るには幹線道路近くでないといけない。
- ・小さなアーク溶接機と発電機、ガス溶接の小型ボンベ、手工具があればジブニーやトライシクル、窓の鉄格子など出張サービスする便利屋はビジネスになりそうだ。
- ・ウイルマの甥が職業訓練センターの溶接コースを修了しているのも好都合。

5) 活動の組織化

- ★現地NGOを設立するのに理事クラスを5名集める必要がある。ウイルマさん曰く「情熱のある人を探している」
- ★TESDAバタガス訓練センターメカトロコースの指導員、リナさんは2008年度JICA集団コースで来日し、6ヶ月間千葉ポリテクセンターで研修を受けました。久米も講義を担当しました。彼女が早速メンバーに加わります。
- ★他にも、フィリピンから2007年度と2009年度のメカトロコース受講者がいます。これからウイルマさんを通じてコンタクトしていきます。

6. 編集後記

★カイビガン通信の名称（仮称）

活動を組織化するためにも組織名が必要になってきました。

でも残念ながら多くの方に声をかけて組織を立ち上げるにはまだ時期が早いように思われます。フィリピン（現地）での活動の安全性やNGOの立ち上げと観察、住民との交流を通じた信頼関係の構築など様子見の時間が1～2年必要なようです。この間、身近な友人たちとフィリピン通いをして、この通信で皆様に様子をお知らせします。通信のタイトルは“**カイビガン**”というタガログ語で、日本語にすると“**友だち**”の意味になります。無理やり漢字を当てはめると“快美願”となるのでしょうか(^-^)。フィリピンの貧困削減や地域開発という大きなテーマへの挑戦ですが、『こんなことはじめたけど一緒にどう?』、「いいね、その内、時間と小遣いが溜まったら仲間になるよ・・・」このノリだけで十分です。やがて、各々が活動の虜（とりこ）になって、多少の苦勞も楽しめるといいですね。以上。

5. 今後の活動計画

3)コテージ ②ものづくりの拠点

コテージでタール湖のナマズを取る仕掛け籠を作って実際に獲ってみたい。成功すれば現地で普及させ、製造販売で1～2家族の生計を確保できるかもしれない。

また、溶接機があれば貝を獲る道具も作れるだろう。他にも、ソーラーや風力発電システム、縫製、食品加工など。

